GPT-5.4が変える日本の知財実務：生成から「業務遂行（Agentic）」への進化

技術的進化と、知財業務への統制下での導入アプローチ

知財業務を加速させる「3つの技術革新」

105万トークンの長文処理と信縮性向上

誤主張の確率も前モデルより33%低下

膨大な特許明細書を一度に処理可能。

高精細なマルチモーダル対応

最大6000pxの画像解釈

複雑な出願図面や商標ロゴの分析精度が向上。

「調べる」から「完達する」エージェントへ

Web探索やシステム操作の性能が向上

調査から報告書作成までの連続実行が可能に。

安全な導入のための「実務実装の要件」

Human-in-the-loop（人が介在する運用）

AI生成物は「下書き」と定義

専門家による検証工程を制度化することが必須。

RAGによる根拠の固定（Grounding）

出力には必ず根拠ソースへのリンクを付与

独自の特許・契約DBと連携。

厳格なデータガバナンス

監査ログの有効化

未公開発明などの「入力禁止情報」の区分管理を徹底。